

姫路城にも、おめでとうやね。



姫路市立白鷺小学校の子どもたち

姫路に、春がやって来ました。2009年に始まった姫路城の「平成の保存修理」が、ついに完了。3月27日、無事に一般公開の日を迎えたのです。着工当時に1年生だった姫路の子どもたちは、この春で小学校を卒業。白く輝く「白鷺城」とともに、未来へ羽ばたいています。世界文化遺産を守るため、鹿島建設を中心とする共同企業体が担った歴史的プロジェクト。日本一難しいと称された、大天守を覆い囲う巨大な素屋根（すやね）の建設に始まり、総数約75,000枚に及ぶ屋根瓦のふき替えや、真っ白な漆喰（しっくい）の塗り替えが行われました。修理期間中は、素屋根の内部に見学スペースを設置。184万人以上の来場者に、貴重な作業現場をご覧いただきました。その後、1年をかけて、生まれ変わった大天守を

傷つけないようにそっと、素屋根を解体。いま再び姫路の空に、大きな白鷺が帰ってきたのです。校舎の廊下の窓から、姫路城を目前に望む、姫路市立白鷺小学校。卒業式や入学式には、「白鷺城」を歌った校歌が響き渡ります。子どもたちにとって、その校歌が一生の誇りになるように。そしてこれからも、世代を超えて歌い継がれていくように。姫路の美しい景色を、未来へ残していかなければ。私たちの仕事は、100年先、200年先を見つめています。姫路城がいつまでも世界文化遺産として、人びとの心を守り続けてくれるように。



100年をつくる会社
鹿島